

1. 科目名 (単位数)	造形演習 (2 単位)	3. 科目番号	JCCM2417								
2. 授業担当教員	井戸川 敦										
4. 授業形態		5. 開講学期	秋期								
6. 履修条件・他科目との関係	「こどもと造形」の単位を修得した後に履修することが望ましい。										
7. 講義概要	「こどもと造形」を踏まえ、より実践的な題材例に取り組むことを通して、乳幼児の造形の特徴や造形活動の役割をより専門的に理解していくとともに、具体的な造形活動の展開について構想・実践することを通して保育の実践力を高め指導のあり方について考えていく。併せて、乳幼児の感性や創造性を受け止められるよう、保育者自身の感性と創造性を育成する。理論と実践を循環しながら講義を進める。										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現することの喜びを体験し理解する。 2. 保育者・指導者として乳幼児の造形活動を支える上で不可欠な、より専門的な造形力や技能を養う。 3. 多くの美術作品に触れ、乳幼児の生き生きとした多様な表現に共感できる感性と知性を養う。 4. 乳幼児の各発達段階における身体性に関わる造形表現の特質を理解し、具体的な手立てを考えることができる。 5. 素材や用具・道具の理解、また技能の習得を通して、安全面に配慮した造形活動を構想し題材化することができる。 6. 乳幼児の造形表現を、その後のさまざまな活動に展開し豊かに発展させることができる。 										
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> i. 毎時の授業において製作する作品を提出課題とする。 ii. 製作・鑑賞に関わるレポートの作成と発表を行う。 iii. 鑑賞として、授業における取り組みの成果の発表を行う時間を設ける。 以上、詳細についてはオリエンテーションの際に説明する。										
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 また授業の進行に伴い適宜資料を配布する。その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。 【教材】 製作道具・材料についてはオリエンテーション時や事前の授業で指示する。各自忘れずに準備をして授業に臨むこと。										
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. さまざまな造形活動を通し、つくることこと・表すことの楽しさに触れ、積極的に表現できたか。 2. 保育者・指導者として乳幼児の造形活動を支える上で不可欠な、より専門的な造形力や技能、また知識を身につけられたか。 3. 乳幼児の各発達段階における身体性に関わる造形表現の特質を理解し、具体的な手立てを考えることができたか。 4. 素材や用具・道具の理解、また技能の習得を通して、安全面に配慮した造形活動を構想し題材化することができたか。 5. 乳幼児の感性や創造性をひらき、また周囲との関係を構築する造形活動の豊かな展開を構想できたか。 ○評定の方法 授業への取り組み、製作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>1. 授業への積極的参加</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> <tr> <td>3. 製作や鑑賞活動の成果 (課題等)</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>4. 作品発表、レポート等</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> </table>			1. 授業への積極的参加	総合点の 30%	2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み	総合点の 20%	3. 製作や鑑賞活動の成果 (課題等)	総合点の 30%	4. 作品発表、レポート等	総合点の 20%
1. 授業への積極的参加	総合点の 30%										
2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み	総合点の 20%										
3. 製作や鑑賞活動の成果 (課題等)	総合点の 30%										
4. 作品発表、レポート等	総合点の 20%										
12. 受講生へのメッセージ	現代の情報化が進化した社会環境においては、子どもの実体験不足が叫ばれている。幼少期における多様な素材体験や造形体験が子どもの豊かな人間的成長を促す。この授業では、様々な造形体験を通して、造形に関する用具・道具の基礎的知識・技能の習得をめざすとともに、乳幼児の感性や創造性を受け止められるよう、保育者自身の感性と創造性を育むことを目指す。また、幼・保・小学校の連続性を視野に入れた絵画・造形の発達段階について理解を深めていく。 【注意事項】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 造形活動で用いられる様々な材料・用具 (絵の具・クレヨン・画用紙・粘土等) は、各自が準備すること。授業内で随時伝えていく。 2. 絵の具などを使用するため、汚れてもよい服装で出席すること。 										
13. オフィスアワー	授業前後の空き時間等 (メールなどで事前にご連絡ください)										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第 1 回	◇ オリエンテーション 授業に関する諸注意 造形表現の構造・発想について	事前学習	教科書を一通り確認しておく。 図画工作や美術の授業を振り返り、印象深かった出来事について考える。またそれを踏まえ、自身が保育者になった際、子どもたちが豊かに製作できる環境設定を考える。								
		事後学習	自身のこれまでの製作活動を振り返り、考えたこと感じたことをまとめる。								
第 2 回	◇ 表現の基礎 素材の特徴と組み合わせについて (講義+演習)	事前学習	これまでの描画経験を振り返り、描画の基本について考える。基本的な道具の使用法を復習し、今後表現するための基盤とする。								

		事後学習	授業で学んだ内容を振り返り、各自で準備したモチーフを描いてみる。
第3回	◇ モダンテクニックによる表現 復習 「デカルコマニー・糸引き絵・スパッタリング・ドリップング」 (講義+演習)	事前学習	絵の具を用いた製作活動の経験を振り返り、印象深かった作品を書き出す。作品製作に向けて、自分らしい色彩や表現について考え、構想をまとめる。
		事後学習	デカルコマニー・糸引き絵・スパッタリング・ドリップングによる製作活動を振り返り、同様の技法が用いられた美術作品について調べる。また上記の技法を使用し作品を製作する。
第4回	◇ モダンテクニックによる表現 「クレヨンスクラッチ・シャボン写し」 (講義+演習)	事前学習	教科書 pp.86-87 を読む。 作品製作に向けて、抽象的な形態や様子に着目し自由に構想を練る。またクレヨンを用いた製作活動の経験を振り返る。
		事後学習	クレヨンスクラッチ・シャボン写しによる製作活動を振り返り、素材の材質や特徴について考える。また上記の技法を使用し作品を製作する。
第5回	◇ ポップアップカードによる表現 I 「山々カード・二本足カード」 (講義+演習)	事前学習	教科書 pp.88-89 を読む。 ポップアップカードについて調べ、作品の構想を練りながら、製作に使用できそうなイメージを収集する。
		事後学習	山々カード・二本足カードによる製作活動を振り返り、出来上がりのイメージとともに記録する。
第6回	◇ ポップアップカードによる表現 II 「ボックスカード」 (講義+演習)	事前学習	ポップアップカードについて調べ、作品の構想を練りながら、製作に使用できそうなイメージを収集する。また実際の現場での使用アイデアの構想を練る。
		事後学習	ポップアップカードについて復習する。様々なポップアップカードのアイデアを書き出し、同様の技法が用いられた絵本作品について調べる。また今回学習した技法を使用し作品を製作する。
第7回	◇ 工作表現 I 「廃材を使った造形表現」 題材の設定・製作の準備・構想と製作 (講義+演習)	事前学習	造形表現に用いられる素材の種類を挙げ、それぞれの素材に対するイメージをまとめる。立体作品の製作に向けて、各自の題材に関する素材を収集する。
		事後学習	実際に製作する立体作品についての製作方法やデザイン案をまとめる。
第8回	◇ 工作表現 II 「廃材を使った造形表現」 素材についての研究 (演習)	事前学習	教科書 pp.89-91 を読む。 空き容器など、身近にある素材に目を向けて、造形材料の可能性について考える。身近な材料を利用した作品製作に向けて、各自の題材に関する資料を収集する。
		事後学習	廃材を利用した製作活動を振り返る。他の学生が使用していた素材にも着目し、内容をまとめる。また今回学習した技法を使用し作品を製作する。
第9回	◇ 造形活動に関わる素材・道具・表現についての研究 I 色・形・材質(質感)について (講義+演習)	事前学習	様々な造形活動について調べる。それぞれの造形活動について、必要となる素材を各自のノートにまとめる。
		事後学習	これまでの製作活動を振り返り、自分の作品に関して色や形、材質(質感)といった造形要素について考える。作品を各自スケッチブックにまとめる。
第10回	◇ 造形活動に関わる素材・道具・表現についての研究 II 様々な造形活動の研究と実践 (講義+演習)	事前学習	教科書 pp.92-93 を読む。 これまでの製作活動を振り返り、自分の作品の特徴について考える。
		事後学習	自身の造形の特徴を、他の学生の作品との比較から、その長所や短所を考える。
第11回	◇ 自分の表現の研究 I 様々な素材を利用した造形活動の研究 (講義+演習)	事前学習	前回まで考えた自分の作品の特徴を生かし、今回のカリキュラムのアイデアスケッチを行う。また、自分の表現に適した技法や素材について考える。

		事後学習	これまでの製作活動を振り返り、自己評価をまとめる。特に自身の造形表現の長所についてのみ、各自のノートにまとめる。
第12回	◇ 自分の表現の研究 II 作品の相互鑑賞 (講義+演習)	事前学習	教科書 pp.93-95を読む。 製作活動について、自分らしく仕上げていくイメージを持つ。作品のプレゼンテーションに向けてコンセプトをまとめる。
		事後学習	相互に鑑賞を行ってみて、特に印象に残った作品やプレゼンテーションについて良かった点をまとめながら、考えたこと・感じたことを各自のノートに記す。
第13回	◇ オンライン美術館 (ICT 教育について) 「Google Arts & Culture を使用した造形表現の研究」 (講義)	事前学習	中学校・高等学校において使用していた美術の教科書を見返し、好きな作家・作品について調べる。その際に、作品を好きだと感じる理由についても考える。
		事後学習	Google Arts & Culture を使用し、興味のある作家の作品について考えたこと感じたことをまとめる。
第14回	◇ 素材研究 I 「素材研究を通した任意の衣装の製作と発表」 (講義+演習)	事前学習	教科書 pp.95-96を読む。 製作・発表に向けて、スケッチブックやノートにアイデアをまとめ、グループ内での意見交換に積極的に参加する。任意の衣装製作に関する構想を練り、各自資料を収集する。
		事後学習	第15回の発表について構想をまとめる。また鑑賞者の視点において、これまでの様々な発表において特に印象に残ったものを取り上げ、考えたこと・感じたことをノートに記す。また今回学習した技法を使用し作品を製作する。
第15回	◇ 素材研究 II 「素材研究を通した任意の衣装の製作と発表」 (演習+発表)	事前学習	作品のプレゼンテーションに向けてコンセプトをまとめる。自身の作品を簡潔に伝えるためのキャッチフレーズを考える。
		事後学習	相互に鑑賞を行ってみて、特に印象に残った作品やプレゼンテーションについて良かった点をまとめながら、自分の作品の良い特徴を再度確認し認識する。図画工作IIの製作活動を振り返り、自分の作品やノートをまとめる。